

## 第9回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2021年10月26日（火） 午前9時00分から午前10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）  
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、小嶋光明、小田啓二、川島恒憲、中村美和、浜田信行、福土政広、高橋賢臣、秋吉優史、阪間 稔
4. 紹介資料  
資料1 大阪大学における放射線関係の事故  
資料2 関係業界との調整等の報告  
資料3 WG活動中間報告書の構成案
5. 議事
  - (1) 意見発表  
資料1に基づき、高橋委員より安全衛生に係る業務の観点からエックス線事故・トラブルに関する意見発表があった。
    - 安全衛生業務の観点から、大学における研究活動の場合、先端的で多様な研究を行っていることから、危険性の事前評価が困難な非定常作業が多くなるため、阪大では、自主管理と内部の巡視員による定期巡視による管理を進めている。
    - 阪大の放射線事故・トラブル事例に関して、原因究明、被ばくによるインパクトの評価、ヒューマンエラー対策等について紹介があった。放射線事故の原因については、作業に慣れた研究者等の確認の怠りが散見されるため、個々の状況に合わせた教育の提供が重要である旨意見表明があった。
    - 委員から以下の意見、コメントがあった。
      - ✓ 事故を発生させた研究者に対するペナルティについて質問があり、（法令以上に）別途罰則等はない旨回答があった。
      - ✓ RI施設における埋設配管からの放射性物質漏えい事故に関し、漏洩事象への事後対応について質問があり、埋設配管を目視点検可能にするなど、工学的な安全対策を行ったとの回答があった。
  - (2) 関係業界との調整状況の報告  
資料2に基づき、小田委員より関係業界との調整の状況について紹介があった。
    - 日本非破壊検査工業会（正会員数198社）の放射性同位元素等安全管理委員会が継続的にエックス線発生装置等の安全管理を継続的に行っており、当該委員会との情報交換が重要であるとの紹介があった。
    - 保物セミナー（令和3年12月16日開催）において、本WGの活動状況も含め、エックス線発生装置に関する事故と装置の安全管理に関して発表する機会がある旨紹介があった。
  - (3) その他
    - WGメンバーに配布していた第8回WGの議事要旨を確認した。
    - 資料3に基づき、飯本委員長より、本WGとしての中間報告書の策定準備に入る旨説明があり、全委員にとりまとめについての依頼があった。具体的な依頼内容について追って事務局から各委員に通知し、必要に応じて個別に調整することになった。委員からの質問に基づき、報告書を届ける読者は専門家ではなく放射線

防護を専門としない方向けとし、本 WG の論点と趣旨が伝わるようにすること、本 WG 発足の契機となったエックス線事故についても可能な範囲で調査を継続し、情報を更新すること、が決まった。また、マネジメント層の関与についても WG で議論をし、中間報告書にも記載を加えるべき、との意見があった。

- 第 10 回は 2021 年 11 月 12 日（金）午前 9 時～11 時 30 分で全体討議を行う。

以上